

新型コロナウイルス感染症 *Up-to-date* 1

## 「新型コロナウイルス感染症 Up-to-date」シリーズをはじめるとあって

まつ もと てつ や  
松 本 哲 哉  
Tetsuya MATSUMOTO

新型コロナウイルスの最初の感染例が昨年 12 月頃に中国武漢で報告されて以降、中国で感染者が増加し、その後、世界に広がって深刻な状況に陥っています。2020 年 10 月の時点で、3 千万人を超える感染者、100 万人を超える死亡者が報告されていますが、いまだに収束のめどが立っていません。最初の時点でここまで悲惨な状況になることを予測した人は、ほとんどいなかったと思います。確かにこの感染症はこれまでの感染症の枠を超えた特徴を有し、人類を混乱と恐怖に陥れており、手強い感染症と言えます。

新型コロナウイルスが国内で最初に広がった第一波の時期は、PCR 検査の能力が充分でなく、治療薬やワクチンもない中で対応しなければいけなかったため、医療機関の苦労は相当なものでした。さらに消毒薬や个人防护具が足りないまま感染対策を徹底しなければいけなかったため、医療従事者は通常の日常業務においても神経をすり減らしていたと思います。

緊急事態宣言が発出され、ステイホームやリモートワーク、学校の一斉休校などで多くの人が仕事や生活面の制限を受けて、第一波は収束する方向に向かいました。しかしその時点でほとんどの医療機関は、多大な犠牲を払い、収入は大幅に減少し、疲弊してしまいました。

第一波が一段落して、冬に起こるであろう流行に備えるべく準備を進めようとしていた矢先、第二波が発生してしまいました。第二波を迎える頃には PCR の検査数もかなり拡大しました。無症状者も積極的に検査対象に加えられ、若年層の感染者が多かったこともあり、重症の感染者が占める割合は少なくなりました。また、第一波の時に比べて、医療従事者もさまざまなノウハウを得ることができ、一部の医療機関では未承認の薬剤も含めて治療を行うことが可能となり、より冷静に対応できるようになってきたと思われまます。

今後、予想される冬の流行においては、新型コロナウイルス、インフルエンザ、さらに風邪の患者がかなり増加することが懸念されています。そのため、各医療機関の体制の整備だけでなく、検査の充実や新規薬剤の承認などが重要な課題になると考えられます。また、ワクチン開発にも多くの期待が寄せられており、集団免疫の成立に欠かせない手段になると思われまます。

以上のように、新型コロナウイルスの発生と世界への広がりには確かに大きな変化を世界にもたらしましたが、一定の期間を経て、このウイルスの特徴を私たちはよく知ることができるようになったのも事実です。それに伴い、診断、治療、感染対策のいずれにおいても、以前に比べてより良い対応が可能になってきていると思われまます。そこで本シリーズは、新型コロナウイルス感染症に関して、Up-to-date な情報を提供することを目的として企画されました。ご執筆をお願いしている先生方は、この領域で先端を走ってご活躍の先生方ばかりであり、ご多忙な中にご執筆をご了解いただけたことに感謝しております。最後に、読者の皆様にはこのシリーズを参考にいただき、今後の対応の一助にいただければ幸いです。